

普通科高校のSDGs教育の中でみどり戦略の授業を実施

普通科高校の学生に対し「みどりの食料システム戦略」について出前授業を実施し、学生が自らの気づきやアイデアを発表。若い世代の政策への理解、農業への興味、体験意欲が向上。

○ 施策分類

みどりの食料システム戦略

○ きっかけ・背景、課題の把握

東北地方環境事務所からの紹介をきっかけに、普通科校である宮城県富谷高等学校が取り組む、SDGs課題研究を目的とした外部授業への講師依頼を受け、みどり戦略のカギを握るZ世代に対し、どのように伝えれば自分事として捉えてもらえるかを検討した。

○ 取組の内容

令和6年9月に「今、農業が本当にヤバイ！私たちの食べ物はどうなる？」をテーマに出前授業を行い、1年生1クラス(34名)に対し、まずは基礎知識を持ってもらうため、農業の現状、みどり戦略についてパワーポイントを用いて説明。5～6名ずつのチームにわかれ、「食料を守るためにできること」の洗い出しを進め、ワークショップ形式でのグループ討議を経て、発表を行った。

○ 効果・成果、今後の方向性

「食品ロスや地産地消の考えが深まった」、「農業体験、農業ボランティアにチャレンジしたい」など、みどり戦略への理解、興味、体験意欲が向上した内容の意見が出された。また、アンケートでは「農林水産業の課題に対して、自分事として行動していきたい」と前向きな感想が寄せられた。アンケート結果は学校と共有するとともに、学生からの質問、要望（農業体験・ボランティア活動のできる生産者や場所の情報）を提供。今後も同校との連携を深め、出前授業を実施していく予定。



出前授業で活用した資料



グループ発表の様子

出前授業の様子

体制図

